

大正後期から昭和戦前期に至る、

地域社会福祉行政の実態解明に必備の史料。

「地方」は物心ともに《貧》の時代であり、

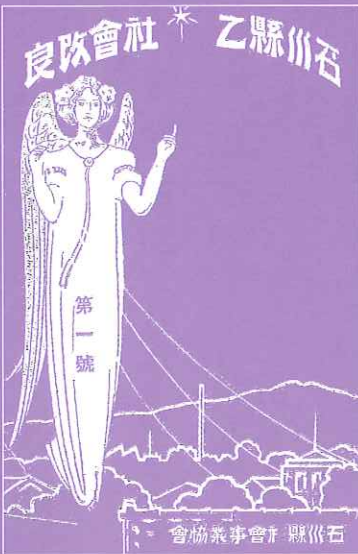
全ての地域で社会改善（労働・人口・食糧・婦人・児童問題等）が要求されていた。
シリーズ第一弾として「石川県」が全力で取り組んだ社会事業活動の全貌に迫る。

各府県社会事業協会雑誌叢書①

石川県之 社会改良

復刻版 全2巻
別冊 1

不二出版



第1号の表紙、1924年（大正13年）

石川県社会事業協会発行

一九二四（大正十三）年

一九四〇（昭和十五）年刊

解説 元村智明（金城大学）

推薦 池田敬正・長谷川匡俊

揃定価 五六一〇〇円十税

二〇〇六年六月 一括刊行

◎復刻によせて

『石川県之社会改良』は石川県社会事業協会によって一九二四（大正十三）年六月に第一号が発刊され、第四号より『社会改良』と改題、第十七号が発刊された一九四〇（昭和十五年）年十二月まで継続した機関雑誌である。本雑誌は、石川県下に社会改良および生活改善を押し進めるために公刊され、「国家興隆」と「社会福祉」の実現に向けて社会事業と社会教育が緊急で切実な問題として提起されている。

編集は石川県社会事業主事の中田邦造と内尾忠治が担当し、各号に社会事業を周知する論稿を寄稿した。なお、中田邦造は後に石川県立図書館長に就任し、さらには戦前後を通じて東京都立日比谷図書館長を歴任し読書運動や図書疎開等の活動で多大な貢献をした。刊行当初から終刊まで県外の議論も数多く

紹介され、救護法施行前後には中央社会事業協会の原泰一による「晩近社会事業の動向」や内務省社会局嘱託の早崎八洲による「農村社会事業」が掲載された。

雑誌『石川県之社会改良』の復刻は、地方において現代が直面した問題を大正後半から戦時下にかけて浮き彫りにするものである。

◎もとむら ともあき（金城大学講師）



社会事業は「地方改良」から

池田敬正

京都府立大学名誉教授

「地方」とは中央に対する表現であるが、それは「官」に対する「民」を意味する「地域」でもあって、「地方改良」とは、地域での生活改善であり、社会改良を意味する。このことは、二〇世紀初葉である日露戦後の日本が、外は帝国主義、内は社会問題に直面し、現代的な国民統合を実現するための社会改良の一環として、感化救済事業にはじまる社会事業を開始することであった。

この時期、加賀百万石の城下町金沢では、現

存する日本最古の福祉施設である小野慈善院（現在の陽風園）が、県や市の助成をうけ、地域の有力者が中心となり財団法人化する。さらに北国慈恵院、金沢育児院、金沢盲啞院、感化施設育成院などの施設が開かれ、愛国婦人会とキリスト教の矯風会や救世軍が、それぞれ支部を設けて活動を開始する。こうした北陸第一の都会である金沢での状況は、二〇世紀初葉から拡がる社会事業への胎動を、北陸において示すものであった。

この動きを組織したのが、一九一九（大正八）年に結成された石川県社会事業協会であり、この協会が刊行したのが、今回復刻される本誌である。この復刻は、ようやく地域から拡がりはじめた社会事業の金沢を中心とする石川県の状況を、今日にあきらかにする。歴史は地方史を大切にしなければならぬが、社会事業史も地域の社会事業の分析を大切にしなければ、社会事業を全体として解明することにならないだろう。

地域的特質の解明と「福祉文化」の発掘に寄与

長谷川匡俊

淑徳大学学長

近年、地域レベルでの社会福祉形成史に関する研究は、これまでとは異なる意味で高まりを見せています。北海道・東北・北信越・関東・中四国など、活動中の地域社会福祉史研究会を横につなぐ連絡協議会が発足して、史料情報の交換や研究交流が進み、地域史研究についての共同戦線も張られるようになってきました。また社会事業史学会においても組織的な全国史料調査に向けた動きが始まっています。過去の事実を現在の私たちにとって意味あるものとして

紡ぎだすために欠かせない素材こそ「史料」にほかなりません。ところで大正後半期から昭和初頭にかけては、このたび復刻の『石川県の社会改良』をはじめ、府県社会事業協会発行の類書が次々と発刊されており、いずれも当時の府県社会事業の動向や地域的特質の解明に必備の史料を提供しています。周知のように社会福祉法は、基本理念の一つに「地域福祉の推進」を掲げています。そして

そのためにも地域住民の生活に根ざした「福祉文化」の創造が求められています。しかしその前提として、地域が自らの歴史の中で生み育ててきた「福祉文化」ともいえるべきものの発掘ないし発見とその歴史的意義を問い、再評価と発展的継承の側面を見落としてはなりません。それだけに現在入手困難な社会事業関係史料の発掘と復刻が待たれるのです。

救済 全9巻・別冊1

大谷派慈善協会刊〔明治四四年〜大正八年年刊〕

別冊Ⅱ解説（佐賀枝夏文）・総目次・索引

菊判・上製・総四、八八八頁

揃定価二六三、〇〇〇円＋税／〇二年一月配本完結〔復刻版〕

推薦Ⅱ長谷川匡俊・吉田久一

本誌は、真宗大谷派の僧・大草慧実が設立した福祉団体Ⅱ大谷派慈善協会の機関誌である。貧困者・失業者・無宿者の救済、刑期終了者の社会復帰事業、被差別部落の改善、禁酒運動、ハンセン病患者への対策、そして児童保護事業・知的障害児教育など豊富な資料が掲載されている。これまで近代社会福祉事業といえはキリスト教の活動が主に語られてきたが、仏教者の新たな事業活動の展開については十分に考察されていない。仏教社会福祉の原点として復刻する。

東京孤児院月報 全3巻・別冊1・付録1

使命社・東京孤児院・東京育成園刊〔明治三二年〜明治四五年刊〕

別冊Ⅱ解説（丹野喜久子）・総目次・索引

付録Ⅱ東京育成園創立百周年記念『東京育成園 創立から明治・大正期』

（分売可Ⅱ五、〇〇〇円＋税）

A4判・B5判・四六判・上製・総一、八四二頁

揃定価八〇、〇〇〇円＋税／〇三年六月刊〔復刻版〕

推薦Ⅱ吉田久一・仲村優一

身よりのない子どもたちをただ「収容」するのではなく、ひとりひとりの子どもの人権を中軸に据え、「家庭」として子どもたちを受け入れ育てた東京孤児院Ⅱ東京育成園。平等と人権、反戦・平和を基調としたその理念は、ようやく表面化してきた児童虐待の問題や子どもの福祉一般について、今もなお大きな示唆を与える。社会福祉のみならず、児童教育・社会思想史研究にとっても第一級の資料である。

獄事叢書 全3巻・別冊1

原胤昭 主宰〔明治二七年〜明治二九年年刊〕

別冊Ⅱ解説（室田保夫）・総目次・索引

A5判・上製・総一、二七二頁

揃定価四五、〇〇〇円＋税／九八年九月刊〔復刻版〕

推薦Ⅱ重松一義・谷昌恒

本誌は、出獄人更生事業で知られるキリスト教教誨師・原胤昭が、監獄を囚人懲罰でなく囚人更生のために改良しようとした監獄改良運動の機関誌である。発行は北海道樺戸にある集治監内の同情会。かつて筆禍事件によって自らも下獄した経験のある原は、同志社出身の教誨師たちを集め、監獄改良事業を展開した。北海道の監獄のニュースを掲載し、監獄改良論を披瀝すると同時に外国の監獄事業を紹介するなど、監獄改良を志す人々に情報を発信した。

労働共済 全6巻・別冊1

浄土宗労働共済会発行〔大正四年〜大正十年刊〕

別冊Ⅱ解説（長谷川匡俊・土井直子）・総目次・索引

A5判・上製・総二、四八〇頁

揃定価九〇、〇〇〇円＋税／〇五年七月刊〔復刻版〕

推薦Ⅱ池田敬正・吉田久一

本誌は、浄土宗労働共済会の機関誌である。渡辺海旭を主筆とし、大正四年一月から大正一〇年三月まで、全六七冊が発行された。高島米峰、矢吹慶輝、長谷川良信などの仏教者、安達憲忠、田中太郎などの東京市関係者、小河滋次郎、田子一民などの社会事業家が寄稿し、労働問題に関わる情報を提供している。「協調の精神」を重視する仏教者らの社会事業活動の歴史的意義を検証し、現在の社会福祉、労働関係を考える上で研究者にとって重要な資料である。

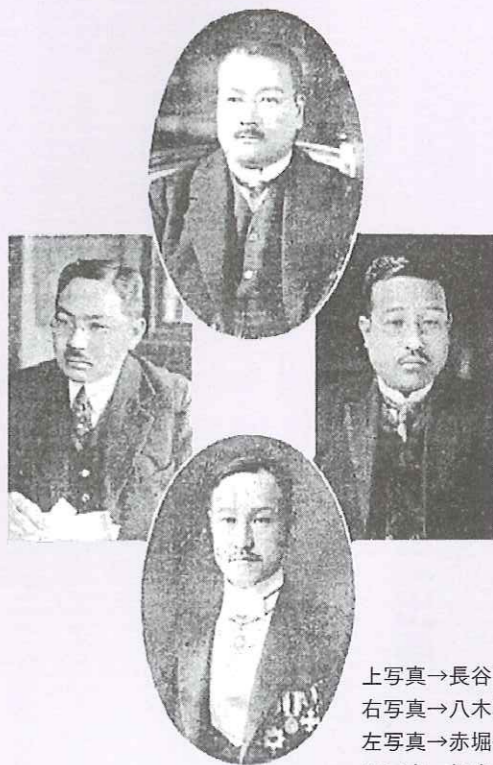
関連図書

石川縣之社會改良 第壹號目次

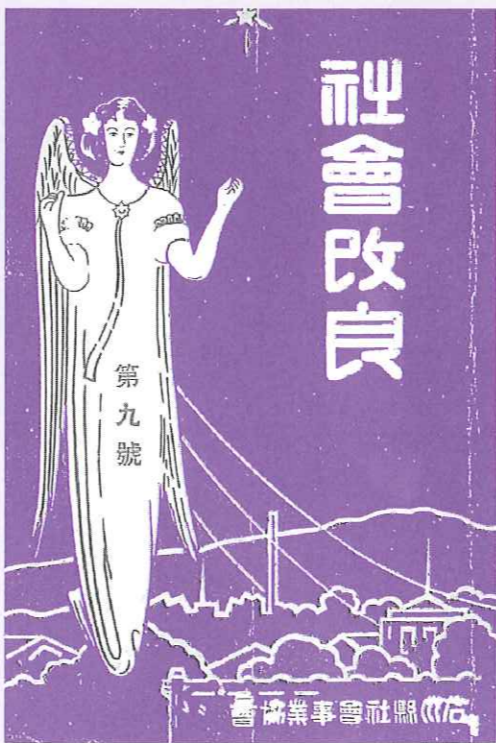
Table of contents for the first issue of 'Social Reform in Iwate Prefecture'. It lists the editor-in-chief (Hachimura Ryo), the board of directors, and the table of contents for the main articles, including 'Social Reform in General' and 'Social Education'.

Table of contents for the 9th issue of 'Social Reform'. It lists the editor-in-chief (Hachimura Ryo), the board of directors, and the table of contents for the main articles, including 'Social Reform in General' and 'Social Education'.

創刊号の目次、1924年(大正13年)



上写真→長谷川久一(顧問)
右写真→八木林作(会長)
左写真→赤堀郁太郎(副会長)
下写真→相良歩(顧問)



第9号の表紙

社會生活の自覺的活動としての社會事業

一般的研究論說

中田邦造

Text of the article 'Social Activities as Self-awareness in Social Life'. It discusses the relationship between individual life and social activities, and the role of social work in promoting self-awareness and social improvement.

Text of the article 'Social Activities as Self-awareness in Social Life' (continued). It further elaborates on the author's views regarding the social and individual aspects of social work.

社會改良

第九號

III. 社會生活の病源

Text of the article 'Sources of Disease in Social Life'. It explores the various factors that contribute to social problems and the need for reform, discussing the relationship between individual health and social well-being.

Text of the article 'Sources of Disease in Social Life' (continued). It continues the author's analysis of social issues and offers perspectives on how to address them through social reform.

石川県之社会改良

復刻版 全二巻・別冊一
* 第四号から『社会改良』に改題

発行——石川県社会事業協会

体裁——A4判・上製・四面付方式・総七五〇頁

(原本の判型及び総頁数はA5判・総二、九九四頁)

内容——第一号(大正十三年六月)～第十七号(昭和十五年二月)

全十七冊(不定期発行)を二巻に合本

別冊——解説・総目次・執筆者索引

(別冊のみ分売可) 二、〇〇〇円十税

ISBN4-8350-5714-7

解説——元村智明(金城大学)

推薦——池田敬正・長谷川匡俊

揃定価——五六、〇〇〇円十税 ISBN4-8350-5711-2

原本提供——石川県立図書館・元村智明・矢上克己

近刊図書

各府県社会事業協会雑誌叢書②

山口県社会事報【復刻版】

発行——山口県社会事業協会

解説——杉山博昭(長崎純心大学)

関連図書

日本仏教社会福祉学会 年報 全8巻

日本仏教社会福祉学会機関誌

第1号(昭和四四年)～第26号(平成七年)

B5・A5判・上製・総三、四三二頁

揃定価二二〇、〇〇〇円十税

'04年10月刊〔復刻版〕

推薦||阿部志郎・吉田久一

仏教社会事業の研究と推進に関心を持つ関係者に
よって創立された日本仏教社会福祉学会の機関誌。

長らく欠号になっていた第一号(昭和四四年)から第二六号(平成七年)を合本にして復刻。第八巻に付録として「文献目録」を収録。現在も継続刊行されている本誌には、多くの貴重な研究論文が収録されており、社会福祉の基本理念、仏教社会福祉の意味を考える上で、研究者のみならず、社会福祉に従事する人々にとっても貴重な文献である。

バックナンバー

- 第27号 一九二頁・定価二、〇〇〇円十税/’97年10月刊
- 第28号 一八二頁・定価二、〇〇〇円十税/’97年10月刊
- 第29号 一七四頁・定価二、〇〇〇円十税/’98年10月刊
- 第30号 一六八頁・定価二、〇〇〇円十税/’99年9月刊
- 第31号 一五四頁・定価二、〇〇〇円十税/’00年9月刊
- 第32号 一八八頁・定価二、〇〇〇円十税/’01年9月刊
- 第33号 一二〇頁・定価二、〇〇〇円十税/’02年9月刊
- 第34号 一七六頁・定価二、五〇〇円十税/’03年9月刊
- 第35号 一五〇頁・定価二、五〇〇円十税/’04年9月刊
- 第36号 一六四頁・定価二、五〇〇円十税/’05年12月刊

年一回発行 B5判・並製(27～32号はA5判)

既刊分合計価格二、五〇〇円十税

*表示価格はすべて税別

不二出版

〒113-0023

東京都文京区向丘1-21-2

TEL 〇三-三三八二-四四三三

FAX 〇三-三三八二-四四六四

振替 〇〇一六〇-二一九四〇八四